



上野東照宮は1627年創建の東京都台東区上野公園に鎮座する神社です。東照宮とは徳川家康公(東照大権現)を神様としてお祀りする神社で、日光や久能山の他、全国に数多くございます。当宮は出世、勝利、健康長寿に特に御利益があるとされ信仰されています。金色殿(社殿)などの豪華な建造物は、戦争や地震にも崩壊を免れた貴重な江戸初期建築として国の重要文化財に指定されており、国内はもとより、海外からも多くの方がお参りされます。1616年(元和2年)2月4日、天海僧正と藤堂高虎は危篤の徳川家康公の枕元に呼ばれ、三人一つ処に末永く魂鎮まるところを作って欲しいと遺言されました。天海僧正は藤堂高虎らの屋敷地であった今の上野公園の土地を拝領し、東叡山寛永寺を開山。境内には多くの伽藍や子院が建立されました。1627年(寛永4年)その一つとして創建した神社「東照社」が上野東照宮の始まりです。1646年(正保3年)には朝廷より正式に宮号を授けられ「東照宮」となりました。

現存する社殿は1651年(慶安4年)に三代将軍・徳川家光公が造営替えをしたもので、遠く日光までお参りに行くことができない江戸の人々のために日光東照宮に準じた豪華な社殿を建立したと言われています。この造営替えに際し約250基の灯籠が全国の大名から競うように奉納されました。幕末には寛永寺の伽藍や子院の多くが消失する上野戦争が勃発しましたが、上野東照宮には火の手が及びませんでした。関東大震災にも倒れず、第二次世界大戦では社殿のすぐ裏に爆弾が投下されましたが幸いにも不発弾で社殿の倒壊は免れました。明治時代には神仏分離令の為境内の五重塔を寛永寺に譲渡(現在は東京都の管理)するなど、江戸時代と比べ境内地は縮小されましたが、江戸初期に建立された社殿が数々の困難を乗り越え現存することは奇跡的で、強運な神君の御遺徳の賜物と言われています。

春は牡丹・桜の名所として、秋は紅葉、ダリア展、お正月は初詣や冬ぼたん鑑賞の方で大変賑わい、出世、勝利、健康長寿などの祈願成就を願う方が後を絶ちません。

かつて江戸の人々の家康公への信仰の対象であったこの御宮は、江戸時代と変わらぬ姿で今もお多くの方に心の安らぎを与えています。

御祭神:徳川家康公 徳川吉宗公 徳川慶喜公

(上野東照宮公式ページ <http://www.uenotoshogu.com/>より)



0001\_五重塔



0002\_五重塔



0003\_五重塔



0004\_五重塔



0005\_五重塔



0006\_五重塔



0007\_五重塔



0008\_五重塔



0009\_五重塔



0010\_唐門



0011\_唐門



0012\_唐門



0013\_唐門



0014\_唐門



0015\_唐門



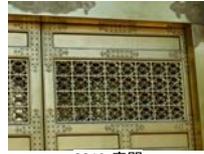
0016\_唐門



0017\_唐門



0018\_唐門



0019\_唐門



0020\_唐門



0021\_唐門



0022\_唐門



0023\_唐門



0024\_唐門



0025\_唐門



0026\_唐門



0027\_唐門



0028\_唐門



0029\_唐門



0030\_唐門



0031\_唐門



0032\_唐門



0033\_唐門



0034\_唐門



0035\_唐門



0036\_唐門



0037\_唐門



0038\_唐門



0039\_唐門



0040\_唐門



0041\_唐門



0042\_唐門



0043\_唐門



0044\_唐門



0045\_米宮権現社



0046\_米宮権現社



0047\_水屋



0048\_水屋



0049\_水屋



0050\_水舎



0051\_水舎



0052\_水舎



0053\_水舎



0054\_水舎



0055\_水舎門



0056\_水舎門



0057\_狛犬



0058\_狛犬



0059\_狛犬



0060\_狛犬



0061\_狛犬



0062\_狛犬



0063\_狛犬



0064\_看板・石碑



0065\_看板・石碑



0066\_看板・石碑



0067\_看板・石碑



0068\_看板・石碑



0069\_看板・石碑



0070\_看板・石碑



0071\_看板・石碑



0072\_看板・石碑



0073\_看板・石碑



0074\_石灯籠



0075\_石灯籠



0076\_石灯籠



0077\_石灯籠



0078\_石灯籠



0079\_石灯籠



0080\_石灯籠



0081\_石灯籠



0082\_石灯籠



0083\_社殿



0084\_社殿



0085\_社殿



0086\_社殿



0087\_社殿



0088\_社殿



0089\_社殿



0090\_社殿



0091\_社殿



0092\_社殿



0093\_社殿



0094\_社殿



0095\_社殿



0096\_社殿



0097\_社殿



0098\_社殿



0099\_社殿



0100\_社殿



0101\_社殿



0102\_社殿



0103\_社殿



0104\_社殿



0105\_神楽殿



0106\_神楽殿



0107\_神楽殿



0108\_神楽殿



0109\_神楽殿



0110\_透塀



0111\_透塀



0112\_透塀



0113\_透塀



0114\_透塀



0115\_透塀



0116\_透塀



0117\_透塀



0118\_透塀



0119\_透塀



0120\_透塀



0121\_透塀



0122\_透塀



0123\_透塀



0124\_透塀



0125\_銅灯籠



0126\_銅灯籠



0127\_銅灯籠